



過ぎやすい季節になりましたが、夏のお疲れなどでておられませんか。
久しぶりの発行となりますが、今回は現在(株)ベストライフ・プロモーションが取り組んでいるデータヘルス計画と、昨年度実施した実証事業の結果をご報告いたします。

■「データヘルス計画」策定に向けて

◇データヘルス計画とは

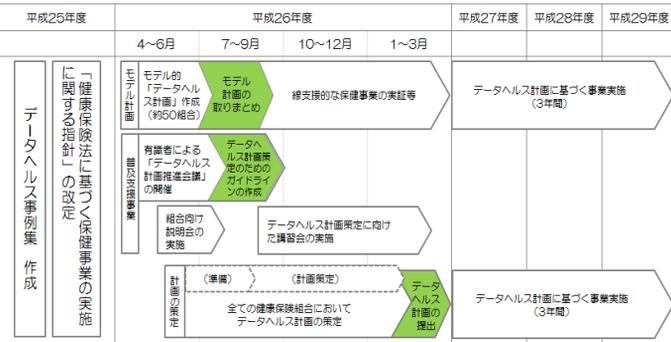
平成25年6月14日の閣議において「日本再興戦略」の中で「全ての健康保険組合に対し、レセプト等のデータの分析、それに基づく加入者の健康保持増進のための事業計画として「データヘルス計画（仮称）の作成・公表、事業実施、評価等の取組を求めるとともに、市町村国保が同様の取組を行うことを推進する。」ということが決定されました。データヘルス計画の特徴には以下の内容が掲げられています。

- (1) レセプト・特定健診データの活用による
 - ・組合や事業所の全体的な健康・医療状況の把握
 - ・保健事業の効果が高い対象者の抽出
- (2) 費用対効果を追求した保健事業の実施（アウトカム重視）
- (3) PDCAサイクルによるレベルアップ
- (4) 「松」「竹」「梅」の身の丈に応じた事業範囲
- (5) 外部専門事業者の活用

◇平成26年度中の「データヘルス計画」策定方針

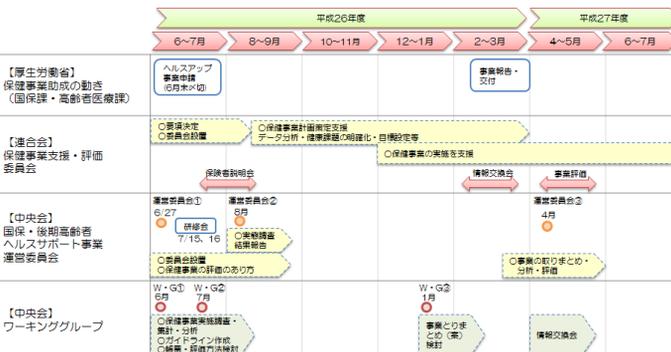
7月に厚生労働省から市町村国保にもデータヘルス計画に関する方針が示され、平成26年度中に全ての医療保険者が計画策定に取り組む必要があります。

①健康保険組合に示されたスケジュール



出典：厚生労働省保健局「データヘルス計画の推進について」より

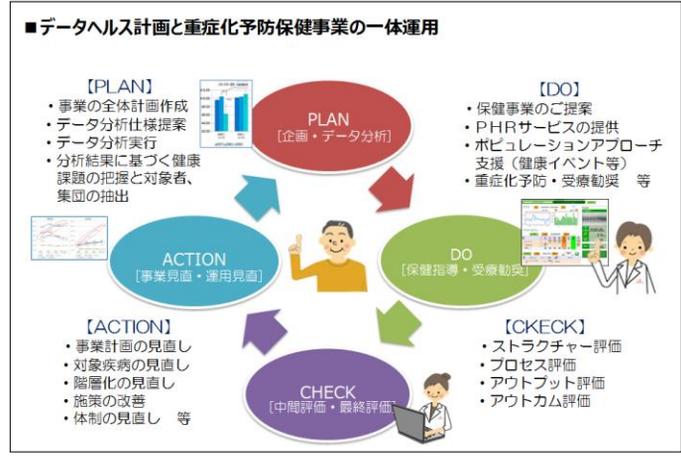
②国保・後期高齢者ヘルスサポート事業スケジュール案



出典：「第1回国保・後期高齢者ヘルスサポート事業運営委員会資料No.2」より

◇PDCAサイクル

データヘルス計画の実施に際し重要な考え方として「PDCAサイクルを複数年回すことにより、レベルアップを図っていくこと」があげられています。弊社は創業以来、データ分析から保健事業までのトータルサービスの提供を事業の柱と位置付け、以下のようなPDCAサイクルの実現を目指しています。



◇「データヘルスモデル事業」

現在、厚生労働省により「レセプト等のデータ分析に基づいた保健事業の立ち上げ支援事業（データヘルスモデル事業）」が実施されており、選定された52の健康保険組合等においてデータヘルスモデル計画策定の真っ最中という状況です。このうち、富士通健康保険組合様と仙台卸商健康保険組合様については、弊社もデータ分析や計画策定のお手伝いをさせていただいています。

富士通健康保険組合様においては、ハイリスク未治療者やコントロール不良者への早期介入による疾病の重症化予防の取り組みを実施中です。さらに「健康度の可視化」を目的として、個人の行動評価・医学評価・医療費評価の指標を活用したポイントプログラムの開発も今後検討される予定です。

また、仙台卸商健康保険組合様においては、従来より異業種による地域型総合健保組合として、母体である協同組合や大学と連携した健康増進事業を実施中ですが、今回はレセプトや健診データ等に基づく複合分析に加え、大学の研究成果を活かした課題抽出とコラボヘルスの施策を立案中です。

◇データヘルス計画策定の課題

現在、多くの医療保険者でデータヘルス計画のご検討が始まっていると推察しますが、最大の課題は全体の現状分析や事業所・地区等の特性把握ができていないという点ではないでしょうか？現状分析がしっかりできていない計画は効果的な施策展開が図れないばかりか、次の計画につなげていくための事業評価も的外れなものとなってしまいます。是非、この機会に現状分析の実施をお勧めします。

平成25年度経済産業省東北経済産業局実証事業のご紹介

「地域新成長産業創出促進事業費補助金」において「次世代医療機器等及び先導ヘルスケアビジネス創出事業」にコンサル会社と共同で応募し採択され、平成26年3月末に無事に事業が終了しましたので、その成果の一部をご紹介します。

平成25年4月から仙台卸商健康保険組合を中心とした新たな東北発の医療・健康機器の評価及び、サービスの検討を主題とした実証事業を開始しました。

最初に東北地区で開発中若しくは評価中の医療・健康機器の募集を行い、その機器を活用した健康サービスを開発して健保組合員を対象にサービス実施と評価を行いました。

1. 評価対象とした機器

東北で開発された以下の機器を評価の対象としました。

機器名称	種別	概要
1) こころコンパス	感情心理測定器	スマートフォンで音声を収集し、その周波数から定量的な気分の変化とストレスを測定する。
2) 生活リズムセンサー	人感・温度・湿度・照度一体型センサー	室内設置型の環境センサーで有線LANにより1分間隔で各種測定データを収集。
3) Locomoni	高機能活動量計	歩数・活動量・歩幅・状態（歩き・走り等）が把握できる活動量計

2. 機器を利用した健康サービス

評価対象とした機器を利用し、コースを設定しました。

各コースについては、9月に参加募集を行い、10月から12月まで健康サービスを提供し、1月から3月までデータの分析・評価を行いました。機器の特性から参加条件を絞って募集を行い実証を行いました。

気分コンパスコース

使用機器	こころコンパス、生活リズムセンサー			
概要	各種データから生活習慣を把握し、気分に影響する原因を探り、食事・運動・気分の見える化による日々の生活意識改善を支援。自身で感情をコントロールできること目指す。			
参加者	男性	女性	合計	平均年齢
	16	3	19	43

快眠チェックコース

使用機器	生活リズムセンサー			
概要	各種データから生活習慣を把握し、睡眠の阻害になる原因を探り、食事・運動・睡眠環境の見える化による日々の生活意識改善を支援。無理なく健康的な睡眠を促進できるようにする。			
参加者	男性	女性	合計	平均年齢
	4	0	4	47

元気に歩こうコース

使用機器	Locomoni			
概要	歩数・歩幅・活動量を測定して自身の運動能力を正確に把握し、今後の生活に支障がないように専門家から運動に関するアドバイス提供する。			
参加者	男性	女性	合計	平均年齢
	12	8	20	55

3. 各機器の課題

1) こころコンパス

- ・声の入力時に小声では反応しない。（通信中のままになる）
- ・公共の場所で声を入力するのは抵抗がある。（恥ずかしさ）

2) 生活リズムセンサー

- ・無線LANに対応して欲しい（有線LANの引き回しが難しい）
- ・生活を監視されているようで気持ち悪さがある。
- ・睡眠状態を測る場合、寝室に設置できない（LAN環境がない）
- ・睡眠状態を測る場合、単身者しか対象者にできない

3) Locomoni

- ・機器が大きい。
- ・電池が持たない（約3週間 単4電池 2本）
- ・データ取込みが面倒（USB接続でパソコンソフトで抽出）

4. 結論と考察

結論

1. ITを利用したメンタル予防サービスの創造

機器を利用してストレス状態・気分の変化をある程度定量的に測定できることが判明したので、将来、これらの機器を利用したメンタル予防サービスの実現は可能であると評価した。

2. ロコモティブシンドロームの予防サービスの創造

高機能活動量計を利用すると、単純に歩数だけでなく、詳細な運動量の把握が可能となり、適切なアドバイスを与えることによりロコモティブシンドロームの予防サービスは、実現可能であると評価した。

考察

使用した機器はどれも試作段階であり、今後、安定性の向上、市場に合わせた価格設定などを行うことにより新たなヘルスケアビジネスとして成長すると考えられる。

5. 普及に向けての課題

新しいサービスの実現にむけて

- ◆ 健康意識を高めるためのインセンティブと教育の必要性

事業化のために

- ◆ ビジネスマッチングの場の提供
- ◆ 東北発の機器を発掘するための仕組み

評価インフラ

- ◆ 評価環境（フィールド・専門家）の必要性
- ◆ 健康機器を評価する第三者認証機関

データ・分析結果の取り扱い

- ◆ 事業主/産業医/かかりつけ医とのデータ共有
- ◆ データアクセスに関するセキュリティ対策
- ◆ データ2次利用に対する課題

今回の実証事業では、東北地区での機器開発および普及を促進するにあたっての課題が抽出されました。

政府でも推進されている「プラチナ社会の実現に向けた成長戦略」でも、同様の検討がされていることから、今後この課題が解決され、プラチナ社会が実現されることを願います。

— 編集後記 —

1年ぶりの発行で、今回も実証事業の報告となりました。

次号では目新しい情報をお届けできればと思っております。



発行元：

株式会社ベストライフ・プロモーション

川崎市中原区上小田中4-1-1富士通川崎工場内

TEL：044-754-2060 FAX：044-754-2029

URL：http://www.blp.co.jp